

集. 富山の生物, 45: 9-16.

大田弘, 1987. 自然環境保全地域候補地現地調査報告書(Ⅲ), pp. 77-94. 富山県.

佐藤卓・平内好子・野口泉, 1999. 富山県氷見市床鍋のモミ林の森林構造. 富山市科学文化センター研究報告, 22: 127-133.

佐藤卓・平内好子・野口泉・松村勉, 2005. 富山県上市町眼目と大松のモミ林の森林構造とササラダニ群集. 富山の生物44: 27-38.

佐藤卓・野口泉・平内好子・小川徳重, 2007a. 富山県氷見市磯辺神明社のユズリハを伴うモミ林

の森林構造. 富山の生物46: 21-26.

佐藤卓・野口泉・平内好子・小川徳重, 2007b. 富山県氷見市泊神明社のスダジイ林の森林構造. 富山の生物46: 27-34.

鈴木時夫・鈴木和子, 1971. 日本海指数と瀬戸内指数. 日本生態学会誌, 20: 252-255.

富山南高校科学部, 1989. ヒトと森林群落の関係—小佐波御前山の場合—. 小佐波, 4: 3-55.

魚津市教育センター, 1982. 魚津の自然, 地形, 地質, 植生. pp. 1-101. 魚津市教育センター. 魚津.

富山の生物 47 (2008)

—角川総合調査報告—

富山県魚津市角川流域の植物チェックリスト

石須秀知

魚津埋没林博物館 〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814

A checklist of plants in the Kadokawa River basin, Uozu-shi, Toyama Prefecture, Japan

Hidetomo Ishizu

Uozu Buried Forest Museum, Shakado 814, Uozu-shi, Toyama 937-0067, Japan

概要

1992年以降記録してきた角川流域の植物771種類(種以下の分類群を含む)のチェックリストを作成したので報告する。

このチェックリストは、筆者が魚津市で記録してきた植物のうち、2007年の富山県生物学会の合同調査に合わせ、角川流域分について抽出したものである。角川流域を重点的に調査した結果ではないため、流域の植物相を論ずるにはデータの質・量ともに不足しているのは明らかであるが、将来の基礎資料として公開する。

方法

リストの情報源は、1992年から2007年までの、筆者の実地調査による採集標本および目撃記録にもとづき、他の標本庫や文献等の記録は含んでいない。

リストアップした植物について、レッドデータブック等(環境庁, 2000, 富山県, 2002)の収録状況、在来種・帰化種の別、出現標高帯の情報を付加した。

標高帯の区分と概況は次のとおり。

- 0～50m: 河口から北陸自動車道・スーパー農道付近まで。河川敷、市街地、農地、段丘崖、台地を浸食した小河川など。
- 50～400m: スーパー農道付近から松倉城跡、旧古鹿熊集落付近まで。丘陵地帯。
- 400～600m: 旧古鹿熊集落から坪野林道付近まで。山地帯下部。

600～1100m: 坪野林道より上部、片貝川・早月川との分水嶺まで。山地帯。

作成したリストから、各標高帯ごとの出現種数、帰化種数、帰化率等を算出した。

結果および考察

作成したリストを表1に掲げる。

リストアップされた植物は、140科771種類(種以下の分類群を含む)であった。これは、流域の植物相を網羅するには足りない数字であるが、富山県全体の約3000種類および魚津市で記録のある1589種類(いずれも筆者集計、未発表)に対して、それぞれ約1/4および1/2に相当する。また、隣接する片貝川流域で1992年以後のほぼ同時期に記録された1009種類(石須, 2004)と比較すると3/4程度であり、角川の流域面積や標高範囲が片貝川より小さいことを反映していると考えられる。

標高帯別では、50～400mの丘陵地帯の出現種類数が672と突出しているが、これはその標高帯での調査箇所や回数が多いことを反映したものである。市街地や農地の多い平野部は別として、400m以上の各標高帯では、今後の調査で種類数は大幅に増加すると予想される。

帰化植物は全体で48種類記録され、帰化率は6.2%であった。標高帯ごとでは、0～50mで31種類13.2%、50～400mで36種類5.4%、400～600mで6種類2.5%、600～1100mで2種類1.8%となり、標高が高く人里から離れるほど帰化率が低下する傾向がみられた。